

戦後

2022.4.9 sat. » 5.29 sun.

デザイン

デザインコミュニティーの人々とその軌跡

主催 香川県立ミュージアム、読売新聞社、美術館連絡協議会／共催 香川県教育委員会

協賛 ライオン、DNP大日本印刷、損保ジャパン、天童木工、堀内カラー

特別協力 日本デザインコミッティー

協力 松屋、多摩美術大学アートアカイヴセンター、国立近現代建築資料館

後援 香川県デザイン協会、公益社団法人日本建築家協会四国支部香川地域会、

公益社団法人日本サインデザイン協会四国地区、一般社団法人日本商環境デザイン協会四国支部

助成 一般財団法人地域創造

開館時間 19:00～17:00(入館は16:30まで)

夜間開館 ～20:00(入館は19:30まで) 4/16・23・30・5/7・14・21・28

休館日 月曜日(ただし、5月2日は開館)

観覧料 一般 1,200円／団体(20名以上)・前売・瀬戸内国際芸術祭パスポート

1,000円／高校生以下・65歳以上・

障害者手帳をお持ちの方・

国際博物館の日(5/18)は無料

SETOUCHI
TRIENNALE
2022

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

<p

戦後の復興からまもない1950年代の東京。ようやく人々の暮らしの中に、家具や道具のデザインへの意識が少しづつ広がりはじめる時期に、「国際デザインコミッティー」(現・日本デザインコミッティー)は、戦後日本のデザイン運動の先駆けとして、国際交流やデザインの啓蒙を目的に創立されました。

きっかけは、1953年にイタリアから届いた一通の招待状。この「第10回ミラノ・トリエンナーレ」への参加要請に応えるべく集ったのが、建築家の丹下健三や吉阪隆正、清家清、デザイナーの劍持勇、柳宗理、渡辺力、亀倉雄策、評論家の勝見勝、浜口隆一、瀧口修造、写真家の石元泰博、そして画家の岡本太郎でした。顧問には、坂倉準三、前川國男、シャルロット・ペリアンが名を連ね、時代をリードする多彩なジャンルの人々が顔を揃えました。

「ミラノ・トリエンナーレ」への参加は次の第11回展(1957年)に実現しますが、むしろ彼らの活動の軸となっていたのは、東京銀座の百貨店「松屋」の一画に設けられた売場に置くための商品選定と、併設の「デザインギャラリー」や催事場で行われた展覧会を通じたデザインの啓蒙でした。通産省のGマーク「グッドデザイン商品選定制度」(1957年)に先んじて、百貨店という身近な舞台で始められたデザイン運動は、ひろく人々の間に定着し、「日本デザインコミッティー」と改称された現在もなお、活発な活動が展開されています。

本展では、「デザインコミッティー」の活動と創立メンバーとの交流に焦点を当てるとともに、そこから生まれたコラボレーションにも注目します。柳宗理《バタフライツール》や森正洋《G型しようゆさし》といった時代を代表するプロダクトとの繋がり、そして旧東京都庁舎(1957年)、香川県庁舎(1958年)、世界デザイン会議(1960年)、東京オリンピック(1964年)での協同。彼らが闊達な交流のなかで切り拓いた仕事の広がりと、デザイン・建築・美術など多領域を軽々と横断していく自由さは、転換期となる今の時代を突破する糸口になるかもしれません。

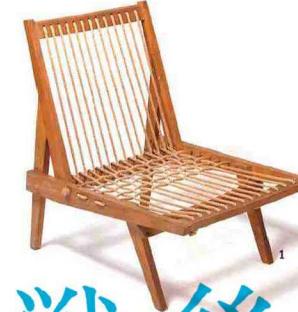
[関連イベント]講演会、ワークショップなどを予定しております。詳細は、当館HPにてご確認ください。

2022.4.9 sat.»5.29 sun.
香川県立ミュージアム

The Kagawa Museum (CECOSLOVACCHIA)
CZECHOSLOVAKIA



1. 渡辺力《ヒモイス》1952年、株式会社メトロポリタンギャラリー / 2. 石元泰博《桂離宮 御興寄前庭 延段と飛石》1953-54年、高知県立美術館 / 3. 柳宗理《硬質陶器N型シリーズ ティーポット》1952年頃、柳工業デザイン研究会 / 4. 劍持勇《スタッキングスツール》1955年、個人蔵 / 5. 丹下健三・都市・建築設計研究所(制作:石黒建築模型)《国立屋内総合競技場 模型》1963年、秩父宮記念スポーツ博物館・撮影:伊奈英次 / 6. 亀倉雄策《アートディレクション》《東京オリンピック第2号公式ポスター》1962年、秩父宮記念スポーツ博物館 / 7. 第11回ミラノ・トリエンナーレ日本室 展示風景、1957年、国立近現代建築資料館 / 8. 岡本太郎《建設》1956年、川崎市岡本太郎美術館 / 9. 「デザインコミッティーメンバーとシャルロット・ペリアン」1955年頃 写真提供:渡辺力氏旧蔵写真 / 10. 坂倉準三建築研究所《第12回トリエンナーレ展 平面図(1:50)》1960年、国立近現代建築資料館



戦後

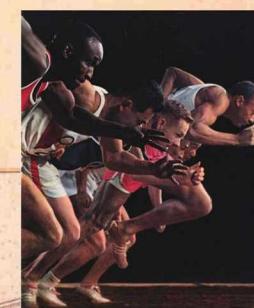


©Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center

デザイン

The Origin of Japanese Design Movement After WWII:
The Tracks of Design Committee
The Kagawa Museum

運動の原点



TOKYO 1964



交通

- JR 高松駅から東へ 900m
- ことでん高松築港駅から東へ 800m
- ことでん片原町駅から北へ 500m
- 高松空港から
 - JR 高松駅までリムジンバスで 35分
 - 高松自動車道
 - 高松西ICより車で約 30分
 - 高松中央ICより車で約 25分
- 駐車場
 - 当館地下駐車場(50台・有料)
 - 香川県玉藻町駐車場(有料)

〒760-0030 高松市玉藻町5-5
tel 087-822-0002(代)
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/>

本展関連企画

「戦後香川とデザインコミッティーをめぐる人々」展
PIANTA
2022年4月9日(土)~5月29日(日)
常設展示室4・5

ご来館の際は、当館が実施する感染症予防対策にご協力いただきますようお願いします。